
幻の勇者列伝

† 丹羽 英里 †

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幻の勇者列伝

【Nコード】

N0500A

【作者名】

十丹羽 英里十

【あらすじ】

朝。目が覚めると、世界は一変した。お前は今日から勇者だから、魔王を倒しに行け。そんな事を言われて、誰が納得出来る？だから：。これはきつと魔王とやらの陰謀なんだ！何やら間違った視点の主人公を取り巻くヒロイックファンタジー。幸せな明日は有るのか？

第一話 目覚めたら：

朝。

それは、いつもと変わりのない朝の筈だった：。

そう。その日が彼の16の誕生日で有る事を除けば：。

世界は全く変わり様のない。

いつもと同じ朝の筈だった：：。

おはよう。

真っ白い世界に、少しだけ上擦った声が滑り込んで来た。

「おはよう。起きなさい！！」

今度は：もっとハッキリと聞き取れ：。

突如として、毛布をはぎ取られ。

彼は身震いをしながら丸くなり：、声の主を恨めしげに見つめた。

彼女は彼と同じ深い緑の眼を潤ませ：。

恥ずかしそうにもじもじとしながら言った。

「おはよう。○○。今日はお城へ行き日よ。早く支度なさい」

彼女：と、言うには余りにも若くはない：と、言うか。

まだ彼女。そう言ってしまうて良いような若さが彼女には満ち溢れていた。

まるで少女のように顔を赤らめ、彼を見つめる：。

彼は独り言を呟くかのように訪ねてみた。

「あの：。イイ年して、恥ずかしくない？」

その後、彼女に彼が昏倒され。

城まで引きづられて行った事は言うまでもない、お話。

それは…。

いつもと変わらない朝の筈だった。

ある日、突然目覚めたら。

某ゲームの如く、16になったのだから。

さあ、お城へ行き。冒険を始めなさい。…なんて……。想像すらしていない世界だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0500a/>

幻の勇者列伝

2010年10月9日03時49分発行